

国語

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(注1) 文部省⇨現在の文部科学省の前身

(注2) レフリー⇨審判員、判定をする人

(注3) 埒外⇨^{らちがい}範囲外

問一 傍線部(1)～(4)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄

A

B

に入るもつとも適当なものを次の中から選び、それぞれ番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|----|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|
| 1 | あるいは | 2 | さて | 3 | しかし | 4 | すなわち | 5 | そして | 6 | 例えば |
|---|------|---|----|---|-----|---|------|---|-----|---|-----|

問三 傍線部(イ)「知らしむべからず」は、この場合どのような意味で使われていると考えられるか。もつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|--------------|---|-------------|---|-----------|
| 1 | 知っているはずがない | 2 | 知らせても意味がない | 3 | 知らせる必要はない |
| 4 | 理解させることはできない | 5 | 理解させることは難しい | | |

問四 傍線部(イ)「客観的な」に「^レ」がついているのはどのような理由のためだと考えられるか。もつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 引用 | 2 | 強調 | 3 | 注釈 | 4 | 皮肉 | 5 | 補足 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問五 空欄

C

D

にそれぞれ適当な漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

問六 傍線部(ウ)「後者を無能と認める」とは、具体的にどういうことか。もっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 学問的な冒険に一生を捧げる研究者のみを無能と考える。
- 2 方法論が確立した分野に身を置く研究者を無能と考える。
- 3 数が多いが平凡な論文しか書けない研究者を無能と考える。
- 4 既知の枠内に収まる成果しか残せない研究者を無能と考える。
- 5 理由にかかわらず、なかなか成果が出せない研究者を無能と考える。

問七 傍線部(エ)「このような作業」とは、どのような作業か。文中から六十字以内の箇所を抜き出し、文末を解答欄に合うような形に改めて答えなさい。

問八 本文の内容に合致しないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 アメリカの業績主義における審査は多数の同業者によって行われるが、日本の審査はそうではない。
- 2 今の日本社会に必要なのは、論文を量産する人物よりも、オリジナリティーあふれる研究をする人物である。
- 3 本書のような書籍が「業績」と認められないのは、レフリーがおらず、日本語で書かれているためである。
- 4 日本語で書かれた論文が自然科学界で認められないことは、日本人のオリジナリティーの創出を阻むことにつながる。
- 5 経済的に先進国となった日本は、自然科学の分野においても発展途上国の段階を過ぎたと認めても良いと思われる。

問九 本文を読んだサクラさんは、ノーベル物理学賞受賞者について調べてみた。その結果、本文が書かれた一九九五年の時

点において、一九〇一年にノーベル物理学賞が創設されてから約百年の間で、日本人の受賞者は三人だったことが分かった。さらに、二十一世紀になってからノーベル物理学賞を受賞した人物を調べて表にまとめた。それらを踏まえ、サクラさんは次のような意見文を書いた。空欄に適当なものを入れなさい。ただし、空欄 I には算用数字を入れること。また、空欄 V には「先進国」ならば a、「発展途上国」ならば b と記入すること。なお、この場合「日本人」を「日本の国籍を持っている人」と定義する。

二十一世紀になってからの I 年間で、 II 人の日本人がノーベル物理学賞を受賞している。二十世紀百年の約 III 分の一の期間で、受賞者数は IV 倍になっていることになる。よって、今の日本は自然科学分野の学問レベルにおいて V だと言ってもよいのではないだろうか。

年度	氏名	国籍
2001	エリック・A・コーネル	アメリカ
	ウルフガング・ケターレ	ドイツ
	カール・E・ワイマン	アメリカ
2002	小柴 昌俊	日本
	レイモンド・デイヴィス	アメリカ
	リカルド・ジャコーニ	アメリカ
2003	アレクセイ・A・アブリコソフ	アメリカ、ロシア
	ヴィタリー・L・ギンツブルク	ロシア
	アンソニー・J・レゲット	イギリス、アメリカ
2004	デヴィッド・J・グロス	アメリカ
	H・デヴィッド・ポリツァー	アメリカ
	フランク・ウィルチェック	アメリカ
2005	ロイ・J・グラウバー	アメリカ
	ジョン・L・ホール	アメリカ
	テオドル・W・ヘンシュ	ドイツ
2006	ジョン・C・マザー	アメリカ
	ジョージ・F・スムート	アメリカ
	アルベール・フェール	フランス
2007	ベーター・グリュンベルク	ドイツ
	南部 陽一郎	アメリカ
2008	小林 誠	日本
	益川 敏英	日本
	チャールズ・K・カオ	アメリカ、イギリス
2009	ウィラード・S・ボイル	カナダ
	ジョージ・E・スミス	アメリカ
	アンドレ・ガイム	オランダ
2010	コンスタンチン・ノボセロフ	イギリス、ロシア
	ソール・パールマター	アメリカ
	ブライアン・P・シュミット	アメリカ、オーストラリア
2011	アダム・G・リース	アメリカ
	セルジュ・アロシュ	フランス
	デヴィッド・J・ワインランド	アメリカ
2012	フランソワ・アングレール	ベルギー
	ピーター・W・ヒッグス	イギリス
	赤崎 勇	日本
2013	天野 浩	日本
	中村 修二	アメリカ
	梶田 隆章	日本
2014	アーサー・B・マクドナルド	カナダ
	デイヴィッド・J・サウレス	アメリカ
	ダンカン・ホルデン	アメリカ
2015	ジョン・M・コステリッツ	アメリカ
	レイナー・ワイス	アメリカ
	バリー・バリッシュ	アメリカ
2016	キップ・ソーン	アメリカ
	アーサー・アシュキン	アメリカ
	ジェラルド・ムル	フランス
2017	ドナ・ストリックランド	カナダ
	ジェームズ・ピーブルス	カナダ、アメリカ
	ミシェル・マイヨール	スイス
2018	ディディエ・ケロー	スイス
	ロジャー・ペンローズ	イギリス
	ラインハルト・ゲンツェル	ドイツ
2019	アンドレア・ゲズ	アメリカ
	真鍋 淑郎	アメリカ
	クラウス・ハッセルマン	ドイツ
2020	ジョルジョ・パリージ	イタリア
	アラン・アスベ	フランス
	ジョン・クラウザー	アメリカ
2021	アントン・ツァイリンガー	オーストリア
	ピエール・アゴスティニ	フランス
	フェレンツ・クラウス	ハンガリー、オーストリア
2022	アンヌ・リュイリエ	フランス

人名および国籍は「ノーベル賞受賞者業績事典 新訂第4版」(日外アソシエーツ、2024.1)の項目に拠った。

二

次の文章は、志賀直哉『或る朝』の一節である。祖父の三回忌の朝、前日の夜更かしがたたリなかなか起きてこない孫の信太郎を、いらだった様子で祖母が起こしに来る。以下は、それに続く場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(志賀直哉『或る朝』による)

問一 傍線部(1)～(4)の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 空欄

A

B

に入ることばとしても適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

1 だから

2 とはいえ

3 ところが

4 そして

5 すなわち

6 たとえば

問三 傍線部(ア)「こんな事」とは何を指すか、二十五字以内で書きなさい(記号や句読点も字数に含む)。

問四 傍線部(1)「祖母は今迄の事を忘れたような顔を故意として云った」とあるが、祖母がこのような行動をしたのはなぜか。

もつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 信太郎との口論など取るに足らないという態度をとることで、寛大さを見せつけたかったから。
- 2 何もなかったようにいつも通りに接して、信太郎に対してもう怒っていないことを示したかったから。
- 3 年長者の余裕がある祖母にとって、信太郎と口論したことはもうどうでもよくなっていたから。
- 4 信太郎が自分への怒りをなかなか収めないのを見て、悪いことをしたと反省したから。
- 5 口論はしても孫への愛情のほうが大きく、怒っていても自然と甘い態度になってしまいうから。

問五 高校生のAさんは、この文章を I Ⅲ の三つの意味段落に分け、登場人物の気持ちの変化をメモに整理した。

Aさんのメモを読み、次の設問に答えなさい。【】はAさんが抜き出した、人物の気持ちが具体的に現れている本文中の箇所である。

「或る朝」考察メモ

I

祖母……… なかなか起きない信太郎への呆れ

【「どうしてこうやくざだか……」祖母は溜息をついた】

←

祖父母孝行しない信太郎への怒り

【「とうとう祖母は怒り出した」「不孝者」と云った】

信太郎……… 不孝者扱いする祖母への反発

【「年寄の云いなりホウダイになるのが孝行なら、そんな孝行は真っ平だ」彼も負けずと云った】

II

信太郎……… 祖母を許したくないという

①

【信太郎の方は故意と未だ少しむっとしている】

←

祖母の素朴な人柄に ② を抜かれ、心洗われる気持ち

【「胸のすがすがしさを感じた」】

III

信太郎……… 妹弟が無邪気に遊ぶ様子を見て、家族を切なく愛おしむ気持ち

④

一

(1) 空欄 ① に入ることはとしてもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 失望 2 度肝 3 毒気 4 意地 5 愛憎 6 激怒

(2) 空欄 ③ ④ には、Aさんの考察の根拠になる本文中の記述が入る。ブロック II

Ⅲ の中から、信太郎の心情の表現としてあてはまる箇所をそれぞれ二十字以上二十五字以内で抜き出して答えなさい。

問六 本文から読み取れる信太郎の人物像の説明としてもっとも適当なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 祖母とは喧嘩をしても妹弟には優しい、兄としての責任感にあふれる人物。
2 家族の何気ない姿に感傷的になる、家族へのたしかな愛情を持った人物。
3 心待ちにしていた旅行を祖母のために中止する、家族思いで優しい人物。
4 祖母への怒りがおさまると共に涙する、感性が鋭く感情の起伏が激しい人物。
5 孝行に対する独自の価値観を持つ、固定観念に捉われない柔軟な人物。

問七 志賀直哉の作品を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 暗夜行路 2 破戒 3 地獄変 4 伊豆の踊子 5 虞美人草

選択問題

三

(その一・古文) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(『竹取物語』による)

(注) みやつこまろ＝竹取の翁のこと

問一 空欄

A

B

には、いずれも「言う」という意味の動詞が入る。それぞれ、文脈上もつともふさわしい語を選び、適当な形に活用させて答えなさい。

問二 傍線部①「なり」の文法的意味としてもつとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 完了

2 伝聞

3 断定

4 過去

5 願望

問三 傍線部(2)「御幸」、(3)「思」、(4)「類」の読みを平仮名で答えなさい。なお仮名遣いは問わない。

問四 傍線部(5)「め」の活用形を漢字で答えなさい。

問五 傍線部(6)「いと率ておはしましたがたくやはべらむ」を現代語訳しなさい。

問六 『竹取物語』と同じジャンルに分類される作品としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 宇治拾遺物語

2 平中物語

3 落窪物語

4 曾我物語

5 今物語

三

(その二・現代文) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

(注) 収斂しゅうれんⅡ一つに収束すること

(外山滋比古『異本論』による)

問一 傍線部(1)～(3)について、片仮名を漢字に直しなさい。

問二 傍線部(ア)「寛恕」の意味としてもっとも適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 広い心を持って相手の過ちを許すこと
- 2 自分の誤りを認めて真摯に詫びること
- 3 相手への不満や怒りを鎮めて耐え忍ぶこと
- 4 相手から何を言われても気にしないこと
- 5 常に正直な心を持って物事に臨むこと

問三 空欄 A D に入るもっとも適当なものを次の中から選び、それぞれ番号で答えなさい。

- 1 要するに
- 2 だから
- 3 しかし
- 4 やはり
- 5 そして
- 6 とすれば

問四 空欄 B C に入ることを文中からそれぞれ漢字二字で抜き出しなさい。

問五 空欄 E に入ることばを文中から九字で抜き出しなさい。

問六 次の文は、本文で書かれている筆者の主張の一部を箇条書きでまとめたメモであるが、誤っている条が一つある。(1)～(6)の中から誤っているものを一つ選び、番号で答えなさい。また、なぜ誤っていると見なせるのか。根拠となる筆者の考えを、解答欄に合うように四十字程度で書きなさい(記号や句読点も字数に含む)。

- ・軍隊の通伝の訓練でも、正確な情報が伝わらないことがある ……(1)
- ・文学的表現も、作者から読者に伝わるまでに通伝と同じような誤伝が起こるものである ……(2)
- ・受容者や時代によって作品の表現の受け取り方が異なることに、作品の生命がある ……(3)
- ・作品を、読者の反応を含めた「現象」として捉えることに重要な意義がある ……(4)
- ・受容者によって受け取り方が変わることとは、作品が意味を成さなくなるので、憂慮すべきことである ……(5)
- ・単語の意味は「現象」として捉えるべきもので、単語で綴られる作品もやはり「現象」である ……(6)

□

問一 (1)措置 (2)弊害 (3)鼓舞 (4)矛盾

問二 A || 3 B || 6

問三 3

問四 4

問五 C || 骨、D || 身 (完答)

問六 5

問七 自分の直感に訴えてくるある感覚や思いを、まず言葉に変え、さらにそれを実際の現象にてらしながら厳密な概念に仕上げる(という作業)

問八 2

問九 I || 23 II || 6 III || 4 IV || 2 V || a

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取り。

問二 接続詞の理解。

問三 内容の理解。

問四 意味の把握。

問五 語彙力の確認。

問六 指示語の理解。

問七 指示語の理解。

問八 内容の把握。

問九 表の読み取り。

□

問一 (1)懐中 (2)放題 (3)乱雑 (4)得意

問二 A || 3 B || 4

問三 (例)旅行に出かけて祖母に心配をかけてやろうということ。

問四 2

問五 (1) ① || 4 ② || 3

(2) ③ 可笑しい中に何だか泣きたいような気持が起って来た

④ 和いだ、然し少し淋しい笑顔をして立って居た

問六 2

問七 1

【出題意図】

問一 基本的な漢字の書き取り。

問二 接続詞の理解。

問三 内容の把握。

問四 内容の把握。

- 問五 語彙力の確認。
問六 内容の把握・登場人物の心情の理解。
問七 基礎的な文学史の知識の確認。

【三】

その一・古文

- 問一 AⅡ仰せ BⅡ申す
問二 2
問三 (2) みゆき (3) おぼ (4) たぐい
問四 已然形
問五 (例) 連れていらっしやるのはたいへんむずかしいのではないか(むずかしいだろう)と存じます。
問六 3

【出題意図】

- 問一 文脈理解と古語の知識を問う。
問二 文法的知識を問う。
問三 古語の知識を問う。
問四 文法的知識を問う。
問五 文脈理解と現代語訳能力を問う。
問六 文学史的知識を問う。

その二・現代文

- 問一 (1)免 (2)変貌 (3)崩壊
問二 1
問三 AⅡ2 DⅡ3
問四 BⅡ物件 CⅡ現象
問五 コミュニケーション
問六 誤っているもの(5)

根拠(例) 受容者の反応がさまざまであっても、表現の意味は必然的に収斂していくものである(と筆者は考えているから。)

【出題意図】

- 問一 漢字の知識、書き取り能力を問う。
問二 語彙(漢語)の知識を問う。
問三 文脈を理解し、適切な接続表現を用いる能力を問う。
問四 文脈を理解する能力を問う。
問五 文脈を理解する能力を問う。
問六 論旨を理解し、解答の根拠を説明する能力を問う。